立山黒部アルペンルートの経済波及効果・ビッグデータ分析

― 経済波及効果は年間 110 億円超、サムライルート内の観光地との差別化で選ばれる周遊先へ ―

【要旨】

- 富山県は従前より製薬業をはじめ製造業が盛んな“ものづくり”県であったが、近年においては、観光業においても一層の発展をみせている。そこで当レポートでは、富山県観光において中心的存在である立山黒部アルペンルート(以下「アルペンルート」)を題材に、経済波及効果の試算やビックデータを用いた訪日外国人客の属性分析・移動分析を行い、富山県観光の一層の発展に向けポイントを整理した。
- 経済波及効果の算出にあたっては最終需要額設定の前提条件には留意が必要であるが、今般の当行推計では、アルペンルートが富山県内にもたらす経済波及効果は年間 110 億円超と試算された。これは、富山県が「第 3 次富山県観光振興戦略プラン」で策定した 2019 年度富山県観光業の経済波及効果 1,617 億円の約 7%程度と相応の規模であり、アルペンルートが富山県観光において重要な観光資源であることが再認識された。
- 次に、ビックデータを用いた属性分析においては、立山町を訪れる訪日外国人は台湾を中心とするアジアからの来訪者が大宗を占めており、季節においては「雪の大谷」を鑑賞できる春期に偏重して来訪する特徴が分かった。また、移動分析により、中部空港から入国し、中部地方を縦断往復する「サムライルート」が主要ルートであることがみえた。彼らは、当該旅程の中で高山や白川郷等の観光地を訪問しており、富山県内における周遊は十分に行われていない等の課題が判明した。
- 今後富山県の観光業がより一層発展し、ひいては経済波及効果の増大により地域経済が活性化するためには、(1)アルペンルート訪問者の県内周遊を促すための交通手段の整備や、周遊先として選んでもらえるよう、高山や白川郷等の競合観光地との差別化や魅力の提案、(2)入込客がひと段落する夏秋シーズンの需要喚起、(3)台湾以外の訪日外国人の呼び込み、(4)富山県全体での一人当たり消費額の増加、等に取り組んでいく必要がある。

（北陸支店　倉嶋昌平）

2024 年 3 月

株式会社日本政策投資銀行北陸支店

DBJ 日本政策投資銀行グループ　DBJ デジタルソリューションズ

目次

0. 令和 6 年能登半島地震について
1. 富山県観光における立山黒部アルペンルートの位置づけ
① はじめに（調査の目的）
② 立山黒部アルペンルートの概要
2. 立山黒部アルペンルートの経済波及効果
① 経済波及効果の前提及び経済効果(直接効果)の推計
② 経済波及効果の推計
3. 立山町を訪れるインバウンド客のビッグデータ分析
① 調査概要
② 属性分析
③ 移動分析
④ ビッグデータ分析まとめ
４. 今後に向けて：富山県の経済効果を高めるために

0. 令和６年能登半島地震について

- このたび、石川県能登地方を震源とする地震（令和６年能登半島地震）において、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
- また、被災地における救命・救助、復旧・復興活動などにご尽力されている方々への敬意と被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げますとともに、弊行も可能な限りの支援に努めて参ります。
- また今後について、能登半島の復興に向けて、経済を正常化させる意味でも是非北陸地域に訪問して経済活動を行っていただきたい。2 章の経済波及効果の論理を引用すれば、当該地域や周辺地域での経済活動が波及し、周辺領域での需要が増大し、経済活動の連鎖が続いていくことになる。
- 本件罹災により、物理面だけでなく経済面でも打撃を受けている当地域へは、状況が落ち着き次第、“訪問による支援”を行っていただくことを切に願う。

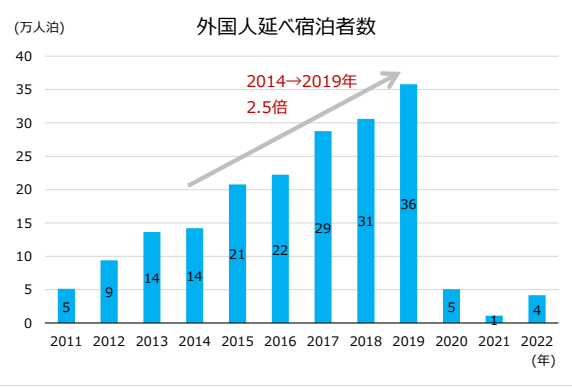
1．富山県の観光における立山黒部アルペンルートの位置づけ

（1）はじめに（調査の目的）

- 富山県は従前より、製薬業をはじめ製造業を主要な産業とする“ものづくり”県であったが、近年においては、2015 年の北陸新幹線の開業等も契機となり、観光業が一層の発展をみせている。
- 富山県内の宿泊者数の推移をみると、日本人客はコロナ前まで年間 350 万人泊程度の宿泊客を安定的に確保している。訪日外国人客（以下「インバウンド客」という。）は増加率が高く、2019 年は 2014 年比 2.5 倍となった。**【図表 1-1】**
- 国内全体でみても、2023 年 10 月のインバウンド客の全国延べ宿泊者数は 2019 年同時期比 115.0%とコロナ前を上回り（観光庁「宿泊旅行統計調査」）、今後も増加が期待されている。彼らの平均旅行支出額は 20.5 万円（平均 10.0 泊）（同調査）と観光産業へも相応の影響があることから、地方においてもインバウンド客の取り込みは重要だ。
- 北陸地域の観光地についてインバウンド客の認知度をみると、立山/黒部地域は他エリアと比較しても認知度が高く、人気の観光エリアとなっている。**【図表 1-2】**そこで、当レポート（第２章）では立山/黒部地域における主要な観光地である「立山黒部アルペンルート」に着目し、その経済波及効果を試算する。
- 更に、第３章では、今後増加が期待され、経済効果にも大きな影響を与え得るインバウンド客について、その動態を把握すべく、携帯電話の位置情報を基にしたビッグデータを利用し、属性データ・移動データを分析する。
- 第 4 章では、データ分析から導き出されたインバウンド客の特色や富山県観光における課題をまとめ、経済波及効果の最大化や、富山県の観光産業の一層の発展向けたポイントについて整理したい。

図表 1-1：富山県・延べ宿泊客数（日本人、外国人）





（出所）観光庁「宿泊旅行統計」

図表 1-2：インバウンド客の立山/黒部の認知度

(%)

	12地域全体	アジア全体	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	欧米豪全体	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス
サンプルサイズ	7,414	4,857	603	596	624	602	600	636	594	602	2,557	632	616	619	690
北陸	4.9	5.8	2.3	5.7	12.0	10.6	5.5	2.5	3.9	3.8	3.2	2.4	3.7	2.3	4.3
金沢	9.5	12.2	7.6	7.6	22.1	23.1	11.3	7.1	7.7	11.1	4.4	5.4	5.0	3.6	3.6
立山/黒部	**7.8**	**10.7**	**3.8**	**4.7**	**33.5**	**27.7**	**5.2**	**3.5**	**3.2**	**3.8**	**2.3**	**2.1**	**1.8**	**1.0**	**4.1**
富山	10.5	13.7	5.6	22.7	24.4	26.2	8.7	6.1	5.7	10.0	4.6	3.6	4.9	5.3	4.5
福井	8.0	9.7	7.1	11.9	11.4	14.1	8.7	4.7	6.6	13.1	4.9	6.6	4.5	5.0	3.6

（出所）【北陸地域版】「DBJ・JTBF アジア・日米豪 訪日外国人旅行者の意向調査 2023 年度版」(調査期間：2023 年 7 月 6 日～14 日)

（2）立山黒部アルペンルートの概要

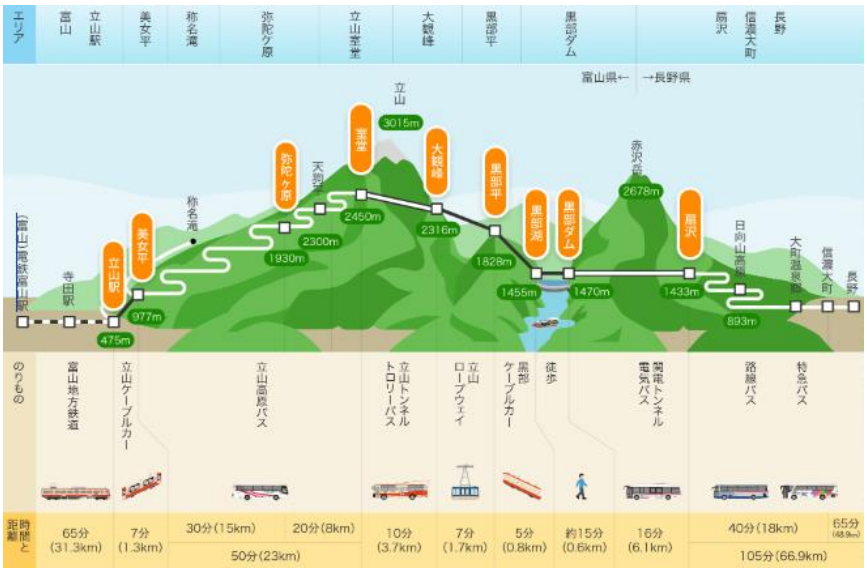
- 立山黒部アルペンルートは富山県と長野県を縦貫するルートである。富山県側、長野県側の両方からのアクセスが可能であり、富山県側の始点となる富山駅へは東京駅から新幹線で 2 時間程度、長野側の始点である長野駅へは約 1 時間 30 分程度と、首都圏からのアクセスが容易であることも人気の一つである。**【図表 1-3】**
- アルペンルートは、様々“のりもの”を乗り継ぐことで、急峻な立山連峰を誰でも体感できることを魅力としており、富山県側から入山した場合は、麓の立山駅からケーブルカーや高原バス、トンネル内のトロリーバス、ロープウェイ等を乗り継いで、長野側まで縦断することが出来る。**【図表 1-4】**
- また、高原バスでアクセス可能な室堂エリアにおいては標高約 2,500m となることから、森林限界となり登山家しか見ることが出来ない雄大な景色を楽しむことができる。また季節の変化とともに一年のうちに様々な横顔をみせ、春の雪の大谷、夏の高原や黒部ダム、秋の紅葉は大きな魅力となっている。**【図表 1-5】**

図表 1-3：立山黒部アルペンルートの所在地



（出所）立山黒部貫光㈱ウェブサイト

図表 1-4：立山黒部アルペンルートの概要説明図



（出所）立山黒部貫光㈱ウェブサイト

図表 1-5：立山黒部アルペンルートの四季の風景

（春:雪の大谷、夏:みくりが池）





（夏:黒部ダム、秋:紅葉）





（出所）立山黒部貫光ウェブサイト

２．立山黒部アルペンルートの経済波及効果

（１）経済波及効果の前提及び経済効果(直接効果)の推計

- 本章では、富山県における代表的な観光地である立山黒部アルペンルートが富山県内にもたらす経済効果を推計したい。
- 経済波及効果とは、ある特定の経済活動がもたらす、関連産業や地域経済への影響や恩恵のことを指す。例えば、観光地の開発や大型イベントの開催などが経済波及効果を生み出し、宿泊施設、飲食店、交通機関など周辺産業が発展し、地域の雇用や所得の増加、地域経済の活性化などが期待されるなど、経済波及効果は、一つの経済活動が引き起こす連鎖的な経済効果を捉える概念である。また経済波及効果の分析については、その計算根拠となる最終需要額の設定方法により、計算結果が大きく異なるため、代入する最終需要額の設定方法には留意して分析結果を判断する必要がある。
- 今回の推計の前提としては、①新型コロナウイルス感染症や大型台風などの影響があった 2019 年度～現在においては、定常状態と異なるため 2018 年度の値をもって推計することとし、②最終需要額の設定には正確なデータを用いる必要があることから、公表データである立山黒部貫光㈱（アルペンルート運営会社）の 2019 年 3 月期の有価証券報告書に記載されているアルペンルート内の売上項目（**【図表２-１】**）を投入し算出した。
- 経済波及効果の測定においては、アルペンルート内での消費以外にも、富山駅からアルペンルートまでの交通費や、貸切観光バスの乗車賃、アルペンルートを訪れるために前泊・後泊した際の宿泊料等を含めることも考えうるが、今回は、算出根拠は公表データの範囲内に留めることとし、立山黒部貫光㈱の売上項目以外の消費額については最終需要額に含めない推計とした。**【図表２-２】**
- 上記前提を基に、運輸関連 38 億円、宿泊関連 23 億円、飲食関連 6 億円、その他 2 億円を最終需要額とした。それらからもたらされる経済効果（直接効果）としては約 68 億円/年となった。

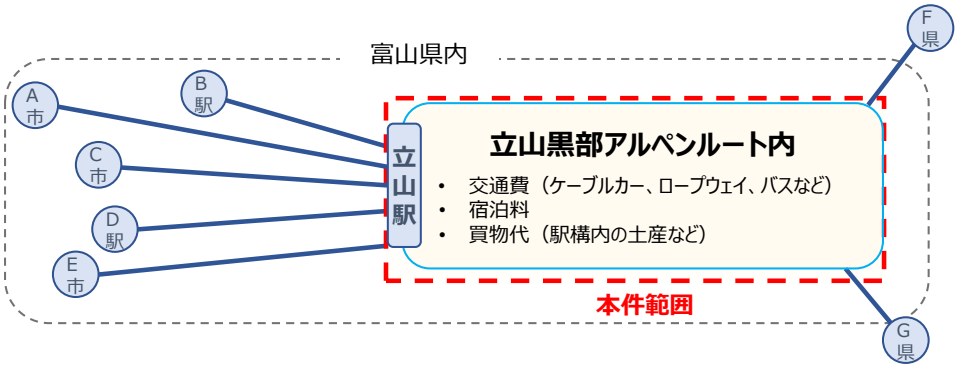
図表 2-1：経済波及効果(直接効果)

(単位:億円)

最終需要額			
運輸関連	宿泊関連	飲食関連	その他
38	23	6	2

（出所）立山黒部貫光㈱ 2019/3 期 有価証券報告書より

図表２-２：経済波及効果(直接効果)の範囲

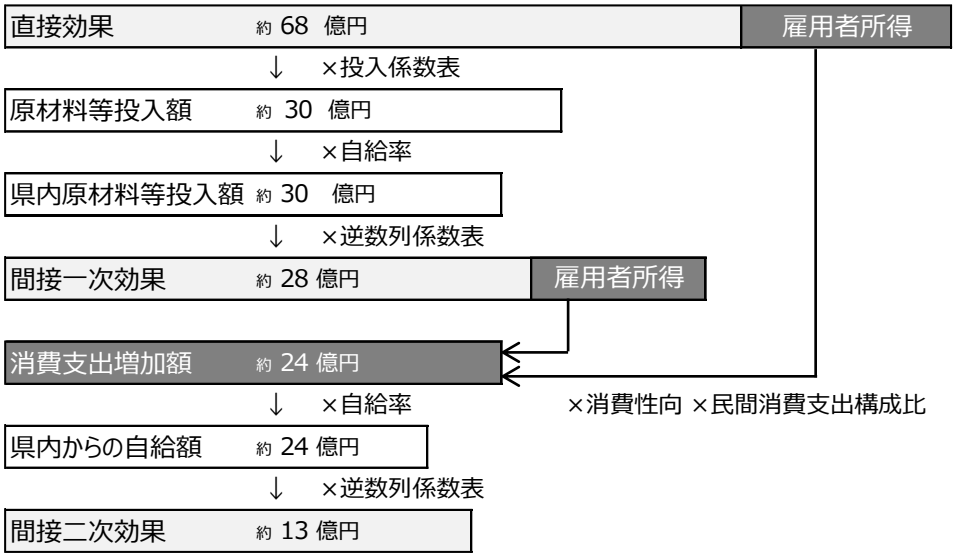


(出所)当行作成

（２）経済波及効果の推計

- 立山黒部アルペンルートが富山県に及ぼす効果は、直接効果の約 68 億円/年にとどまらない。約 68 億円/年に相当する宿泊サービス、飲食、土産、交通サービスへの需要が生じた場合、これらを生産・提供するために富山県内で賄われる原材料等への投入額は、約 30 億円/年となる。また、原材料等投入額の増加は各産業における生産を誘発することになるため、これらがもたらす富山県内の各産業による生産額の合計は、約 28 億円/年となった（＝間接一次効果）。
- また、このような生産誘発を通じて雇用者の所得も増加するが、その一部が消費に回ることで、さらに富山県内の各産業における生産が誘発される。このような雇用者所得を通じた経済波及効果を推計すると、約 13 億円/年となった（＝間接二次効果）。
- これらを足し合わせた経済波及効果は、約 110 億円/年となった。理論的には間接二次効果の後に、さらに第三次以降の波及が発生すると考えられるが、本試算では間接二次効果までの累計をもって経済波及効果とした。**【図表 2-3,2-4】**
- この試算は、富山県が策定した第 3 次富山県観光振興戦略プランにおける 2019 年度の観光業の経済波及効果 1,617 億円と比較すると、富山県の観光業の経済波及効果の約 7%程度に相当することから、富山県観光において相応の寄与をしていることが伺える。

図表 2-3：波及効果算出プロセス



図表 2-4：経済波及効果と波及効果倍率

直接効果	間接一次効果	間接二次効果	経済波及効果	波及効果倍率
約 68 億円	約 28 億円	約 13 億円	約 110 億円	約 1.61 倍

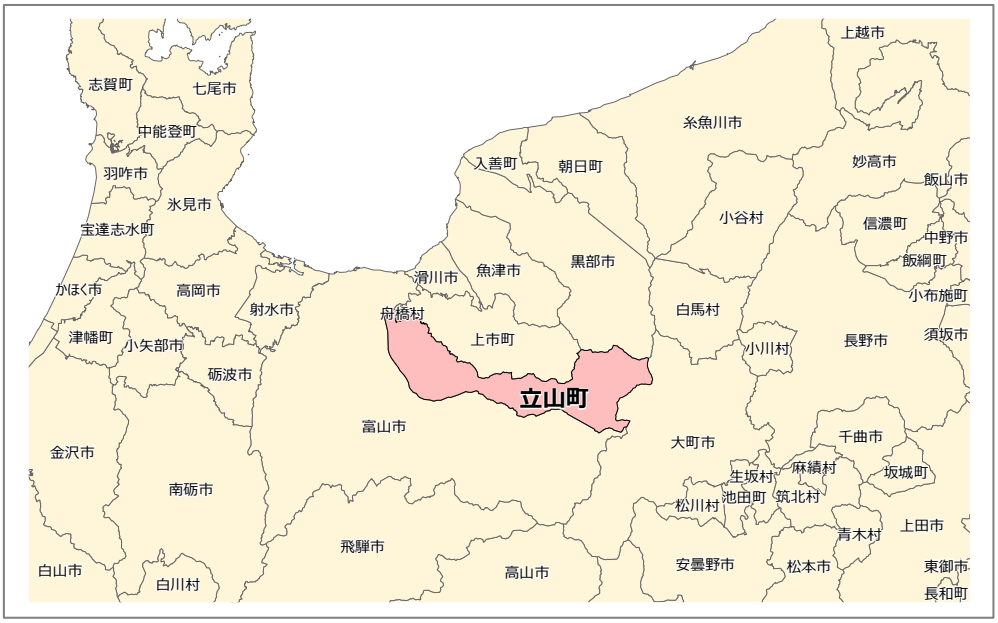
3．立山町を訪れるインバウンド客のビッグデータ分析

（1）調査概要

- 第 2 章で示した経済波及効果の通り、アルペンルートが富山県の観光産業に与える影響は大きく、富山県の観光産業や、県内観光事業者においても重要な位置づけとなろう。また、今後においては第一章、図表 1-1 の通り、訪日外国人観光客が増加することが期待され、彼らの一部はアルペンルートを利用し、県内を周遊するため、彼らの移動傾向や周遊動向が富山県観光産業に影響を与える。
- 本章では、富山県立山町を訪れたインバウンド客の移動動向について、携帯電話の位置情報を活用したビックデータ分析を行った（ドコモのモバイル空間統計®）。なお、データ分析においては DBJ デジタルソリューションズ㈱の協力を得て実施した。

【対象エリアとサンプル】

対象エリアを富山県立山町とし、ここに 2 時間以上滞在したインバウンド客をサンプルとした。
当該サンプルに該当するインバウンド客は、入国から出国までの期間で位置情報の捕捉対象となる。



(出所)ベースマップは、「全国市区町村界データ(C)Esri Japan」を加工し利用

【対象期間】

No	項目	
1	期間	2018 年 3 月 1 日から 2019 年 2 月 28 日
2	集計単位	3 か月毎に集計 春： 2018 年 3 月から同年 5 月 夏： 2018 年 6 月から同年 8 月 秋： 2018 年 9 月から同年 11 月 冬： 2018 年 12 月から 2019 年 2 月

新型コロナウイルス感染症や、台風等の災害の影響がなかった 2018 年度を対象期間として設定した。

（２）属性分析

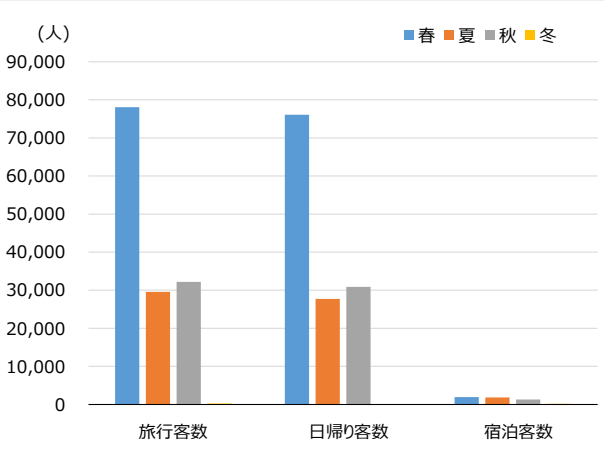
① 旅行客数（総数）、日帰り客数、宿泊客数

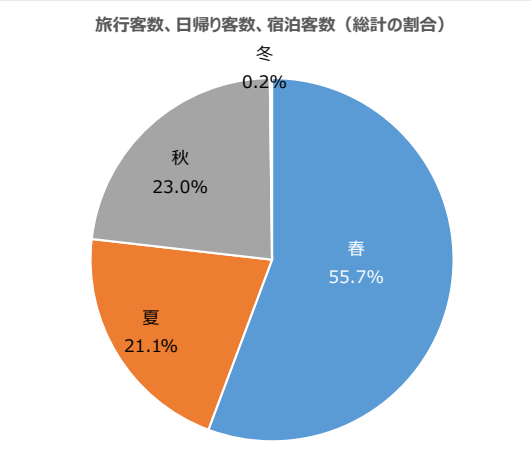
- 2018 年に立山町を訪れたインバウンド客について、季節ごとの属性をみると、積雪の多い春期間に年間の 6 割近い旅行客が来訪している。**【図表 3-1】**
- 旅行者の 9 割以上が日帰り客となっており、宿泊客はほとんどいない。立山町を訪れても、宿泊せず次の目的地に移動していることがわかる。
- なお、2018 年の年間でみると立山町への旅行客数は 14 万人となっており、ヒアリング数値や立山黒部貫光㈱発表数と異なっているが、当地域の 2 時間以内の滞在者は本データ収集でカウントされないこと等でデータが乖離している思料される。そのため、人数の絶対数については参考値とされたい。

図表 3-1：立山町を訪れるインバウンド客（旅行客数、日帰り客数、宿泊客数）

（人）

	春	夏	秋	冬	総計	割合
旅行客数	78,049	29,581	32,205	275	140,110	100.0%
日帰り客数	76,100	27,734	30,888	98	134,820	96.2%
宿泊客数	1,949	1,847	1,317	177	5,290	3.8%





旅行客数：時間区分なく 2 時間以上滞在した人数

宿泊客数：2～5 時（深夜帯）に 2 時間以上滞在した人数

日帰り客数：旅行客数から宿泊客数を除いた人数

※集計方式：期間ユニーク（同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず 1 人と集計）

データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

② 国地域別の旅行客数

- 国地域別でみると日本の近隣諸国である台湾、韓国、香港が上位を占めている。**【図表 3-2】**
- 台湾、香港、タイ、マレーシアといった温暖な国では、春の来訪がその他のシーズンと比べ 3 倍以上となっており、「雪の大谷」が圧倒的誘客コンテンツとなっていると思料される。
- 一方、韓国は、年間を通して安定的な来訪となっており、他の国地域にはない特徴がある。
- 欧米豪では、アメリカからの来訪者が最も多いが、全体に占める割合は 2%弱となっている。

図表 3-2：立山町を訪れるインバウンド客（国地域別）

（人）

旅行客数	期間				
国地域	春	夏	秋	総計	割合
台湾	34,596	9,540	10,587	54,723	39.8%
大韓民国	8,982	8,461	9,317	26,760	19.5%
香港	12,290	4,433	6,083	22,806	16.6%
タイ	8,651	734	804	10,189	7.4%
インドネシア	3,988	2,321	1,271	7,580	5.5%
中華人民共和国	1,648	1,134	1,085	3,867	2.8%
シンガポール	1,707	606	542	2,855	2.1%
マレーシア	2,258	296	213	2,767	2.0%
アメリカ合衆国	900	785	525	2,210	1.6%
オーストラリア	645	180	471	1,296	0.9%
フィリピン	414	177		591	0.4%
インド	500			500	0.4%
イギリス	145	91	234	470	0.3%
ベトナム	299			299	0.2%
カナダ			180	180	0.1%
ニュージーランド	126			126	0.1%
カンボジア	109			109	0.1%
総計	**77,258**	**28,758**	**31,312**	**137,328**	**100.0%**

旅行客数：時間区分なく 2 時間以上滞在した人数
※集計方式：期間ユニーク（同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず 1 人と集計）
データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。
※冬期：国地域別では、サンプル数が減少しており、秘匿処理によりデータなし。

（3）移動分析

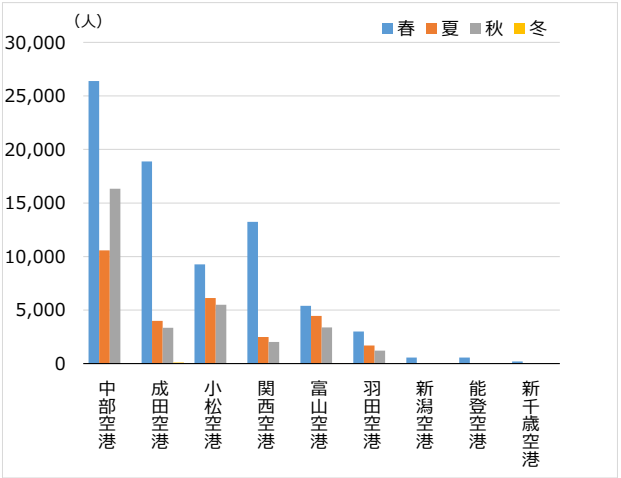
① 入国空港

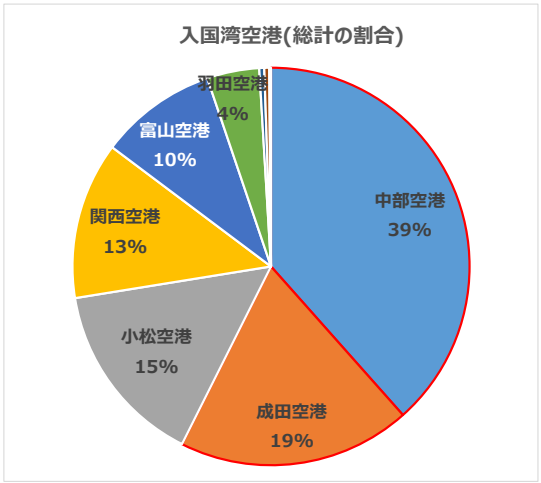
- 立山町を訪れた訪日外国人旅行者が利用した空港をみると、入国時は、中部空港が 39%、成田空港が 19%、これら２つの空港で全体の過半を占める。中部空港は、全体の４割近くを占める結果となった。**【図表 3-3】**
- 北陸の空港では、富山空港が 10%、小松空港が 15%となっている。

図表 3-3：立山町を訪れるインバウンド客の入国湾空港

（人）

旅行客数 / 入国湾空港	期間 春	夏	秋	冬	総計
中部空港	26,401	10,571	16,331		53,303
成田空港	18,885	3,982	3,344	96	26,307
小松空港	9,261	6,121	5,493		20,875
関西空港	13,238	2,482	2,017		17,737
富山空港	5,397	4,442	3,369	51	13,259
羽田空港	2,999	1,691	1,209		5,899
新潟空港	560				560
能登空港	558				558
新千歳空港	194				194
総計	77,493	29,289	31,763	147	138,692





データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

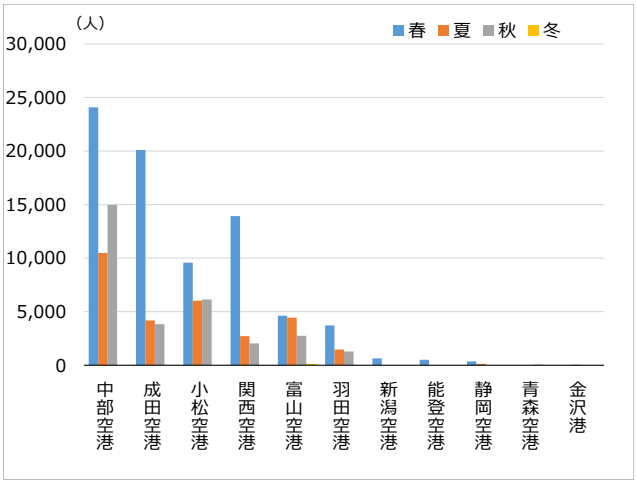
② 出国空港

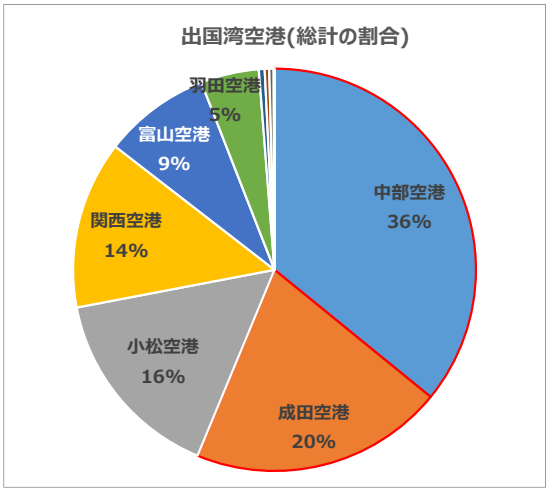
- 立山町を訪れたインバウンド客が出国時に利用した空港をみると、中部空港が 36%、成田空港が 20%、小松空港が 16%となっており、入国時とほぼ同じ傾向を示した。**【図表 3-4】**
- わずかではあるが、金沢港から出国している客もおり、クルーズ船客の訪問地として訪れた可能性もある。

図表 3-4：立山町を訪れるインバウンド客の出国湾空港

（人）

合計 / 旅行客数	期間				
出国湾空港	春	夏	秋	冬	総計
中部空港	24,084	10,478	14,984		49,546
成田空港	20,101	4,170	3,833		28,104
小松空港	9,583	6,018	6,141		21,742
関西空港	13,919	2,704	2,027		18,650
富山空港	4,625	4,440	2,744	38	11,847
羽田空港	3,716	1,464	1,272		6,452
新潟空港	643				643
能登空港	501				501
静岡空港	362	117			479
青森空港			58		58
金沢港		37			37
総計	**77,534**	**29,428**	**31,059**	**38**	**138,059**



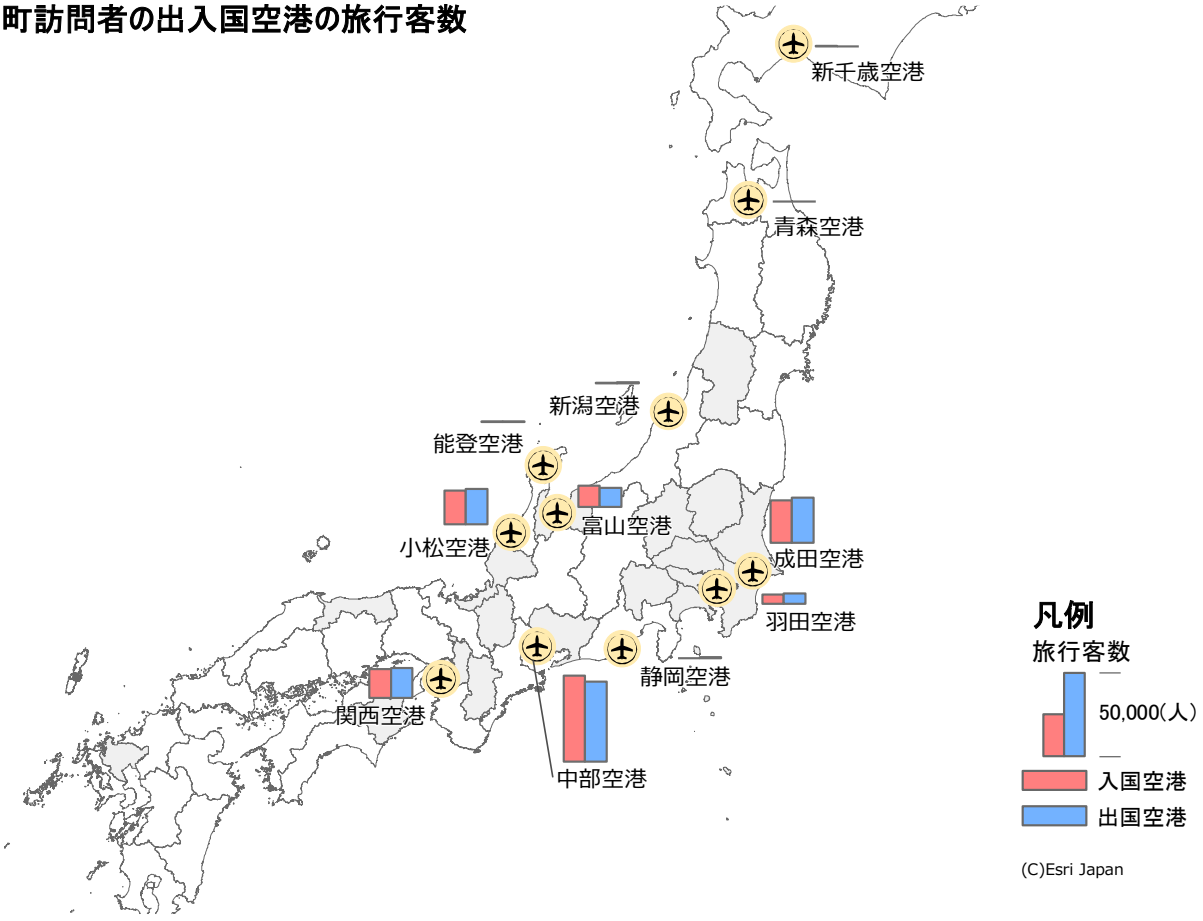


データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

③ 出入国空港（マップ）

立山町訪問者の出入国空港の旅行客数



データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社ＮＴＴドコモの登録商標です。

④ 立山町以外の他旅行先（総数）

- 全ての国地域の旅行客を対象に、他旅行先[1]の相関関係を割合で整理した。**【図表 3-5】**

$$\text{他旅行先の相関の比率(\%)} = \frac{\text{他旅行先の旅行客数}}{\text{立山町の旅行客数}}$$

- 立山町来訪者の 63.7%が高山市に訪問しており、次いで、白川村(62.1%)、金沢市(51.8%)と並ぶ。
- 一方、富山県内の旅行先をみると、隣町の富山市は 46.9%、黒部市は 16.3%がランクインするのみとなっており、立山町訪問客は、富山県内を十分に周遊していないことが伺える。

図表 3-5：立山町を訪れるインバウンド客のその他の旅行先（総数）

旅行客数（総数）	春	夏	秋	冬	総計
富山県 立山町	78,049	29,581	32,205	275	140,110

（人）

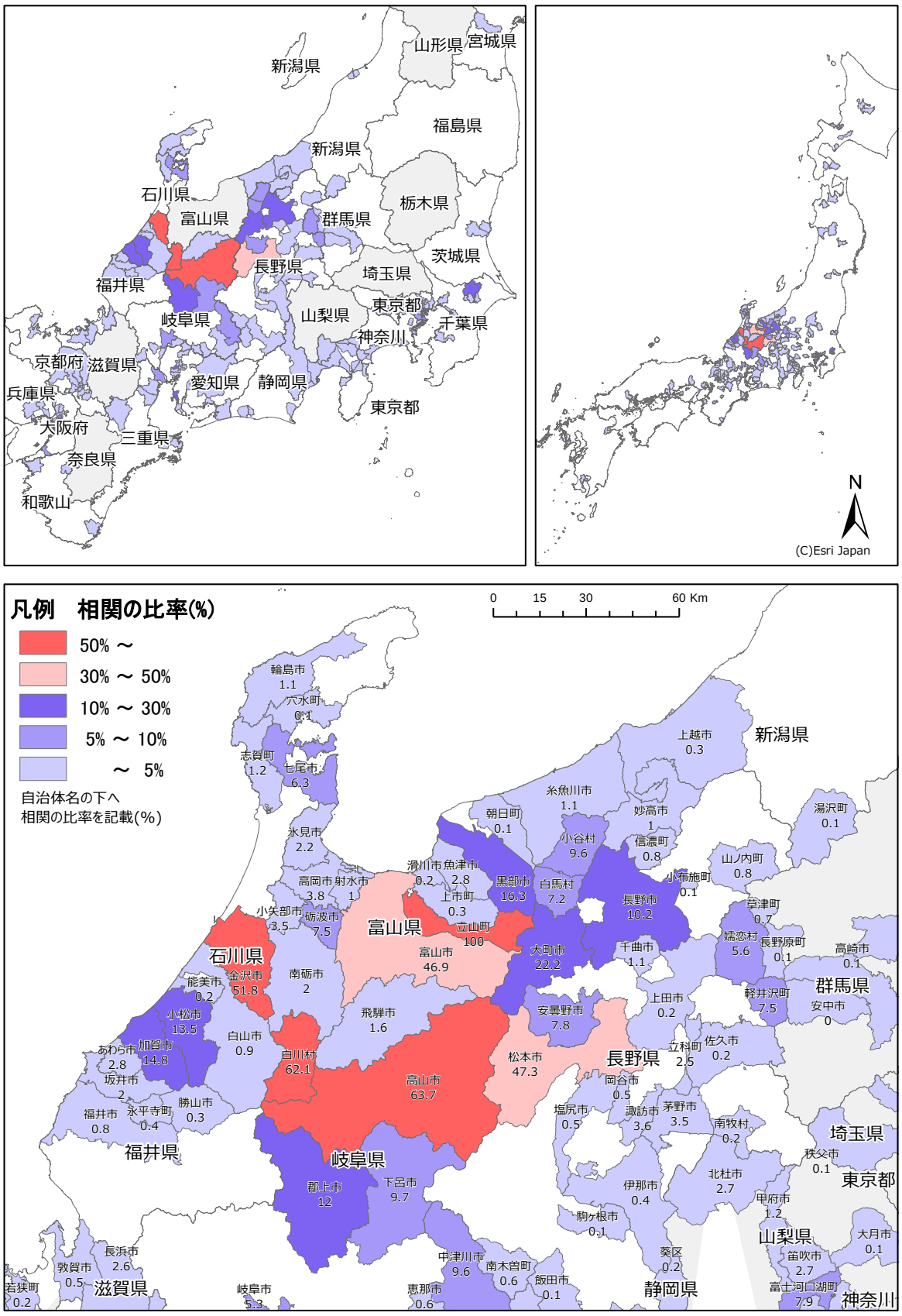
旅行客数 / 期間 / 市区町村名	春	夏	秋	冬	総計	相関の比率(%) 【総計】
岐阜県 高山市	53,396	15,815	20,060		89,271	63.7%
岐阜県 白川村	51,070	16,133	19,767	82	87,052	62.1%
石川県 金沢市	42,560	14,221	15,751	77	72,609	51.8%
長野県 松本市	38,470	12,317	15,521		66,308	47.3%
富山県 富山市	33,623	16,239	15,596	246	65,704	46.9%
愛知県 名古屋市中区	21,869	9,469	13,505		44,843	32.0%
愛知県 常滑市	17,765	6,576	9,400		33,741	24.1%
長野県 大町市	16,808	6,099	8,236		31,143	22.2%
千葉県 成田市	19,519	4,049	3,942		27,510	19.6%
富山県 黒部市	8,471	5,935	8,413		22,819	16.3%
愛知県 名古屋市中村区	11,515	4,221	5,983		21,719	15.5%
大阪府 大阪市中央区	15,267	3,479	2,916		21,662	15.5%
石川県 加賀市	12,364	3,889	4,420		20,673	14.8%
石川県 小松市	7,888	5,391	5,614		18,893	13.5%
岐阜県 郡上市	9,764	2,607	4,437		16,808	12.0%
東京都 新宿区	10,024	3,081	2,816		15,921	11.4%
長野県 長野市	8,772	2,936	2,529		14,237	10.2%
東京都 台東区	8,462	2,869	2,385		13,716	9.8%
岐阜県 下呂市	7,339	2,286	4,030		13,655	9.7%

※ 上位を表示

データ提供元： （株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社ＮＴＴドコモの登録商標です。

[1] 立山町来訪者を対象に立山町以外で 2 時間以上滞在した市区町村を示す。

立山町訪問者の他都市訪問　相関の比率【年間−全訪日外国人】



データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社ＮＴＴドコモの登録商標です。

⑤ 立山町以外の他旅行先（国地域別）

- 14 ページ図表 3-5 で示した立山町を訪れるインバウンド客のその他の旅行先(総数)について、国地域別に整理した。**【図表 3-6】**
- 属性分析にも関連し台湾からの来訪者が大きな割合を占めており、台湾以外の旅行者についても概ねサムライルートに係る市町村の訪問割合が高い。
- アジア諸国ついては、愛知県常滑市の訪問割合が高く、中部国際空港の利用率が高いと推察される。一方で米豪では千葉県成田市の訪問割合が高く、成田国際空港の利用率が高いと推察される。

図表 3-6：立山町を訪れるインバウンド客のその他の旅行先（国地域別）

【アジア】

市区町村名	国地域 大韓民国	中華人民共和国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	インド	カンボジア	フィリピン
岐阜県 高山市	10,297	1,685	43,060	16,382	6,790	1,586	2,009	3,656	293	92	
岐阜県 白川村	7,141	1,816	45,712	17,020	4,890	1,496	1,981	3,741	230	74	
石川県 金沢市	6,140	1,765	39,198	14,674	1,983	1,301	1,062	2,479			
長野県 松本市	3,408	1,351	36,025	13,393	4,995	994	677	1,766		73	
富山県 富山市	17,422	2,639	18,029	11,979	4,597	1,404	1,131	3,750	312		209
愛知県 名古屋市中区	5,192	975	22,582	9,965	2,454	469	768	961			
愛知県 常滑市	6,064	1,166	15,241	7,808	1,695	427	401				
長野県 大町市	7,843	839	11,193	4,852	1,613	716	324	1,398			
千葉県 成田市	2,384	470	10,484	2,927	3,339	1,017	567	2,533	449		
富山県 黒部市	14,197	476	5,329	1,426		237					
愛知県 名古屋市中村区	1,491	1,000	8,521	7,292	1,019	522	342	159			
石川県 加賀市	2,926	173	13,529	3,197	239	58					
大阪府 大阪市中央区	379	484	5,452	2,562	3,952	632	969	4,616	256		
石川県 小松市	1,674	458	12,362	3,688	187	56					
岐阜県 郡上市	746		10,610	2,567	1,244	240	407	113			

【欧米豪】

市区町村名	アメリカ合衆国	オーストラリア	イギリス	カナダ	アジア・欧米豪総計
岐阜県 高山市	1,145	573	157		87,725
岐阜県 白川村	1,153	339			85,593
石川県 金沢市	1,134	654	236		70,626
長野県 松本市	1,075	531	175		64,463
富山県 富山市	1,177	643	186	175	63,653
愛知県 名古屋市中区	576	85			44,027
愛知県 常滑市	148				32,950
長野県 大町市	634	298	71		29,781
千葉県 成田市	708	625	84		25,587
富山県 黒部市	289				21,954
愛知県 名古屋市中村区	445	75			20,866
石川県 加賀市	187				20,309
大阪府 大阪市中央区	358	437			20,097
石川県 小松市	274				18,699
岐阜県 郡上市	137				16,064

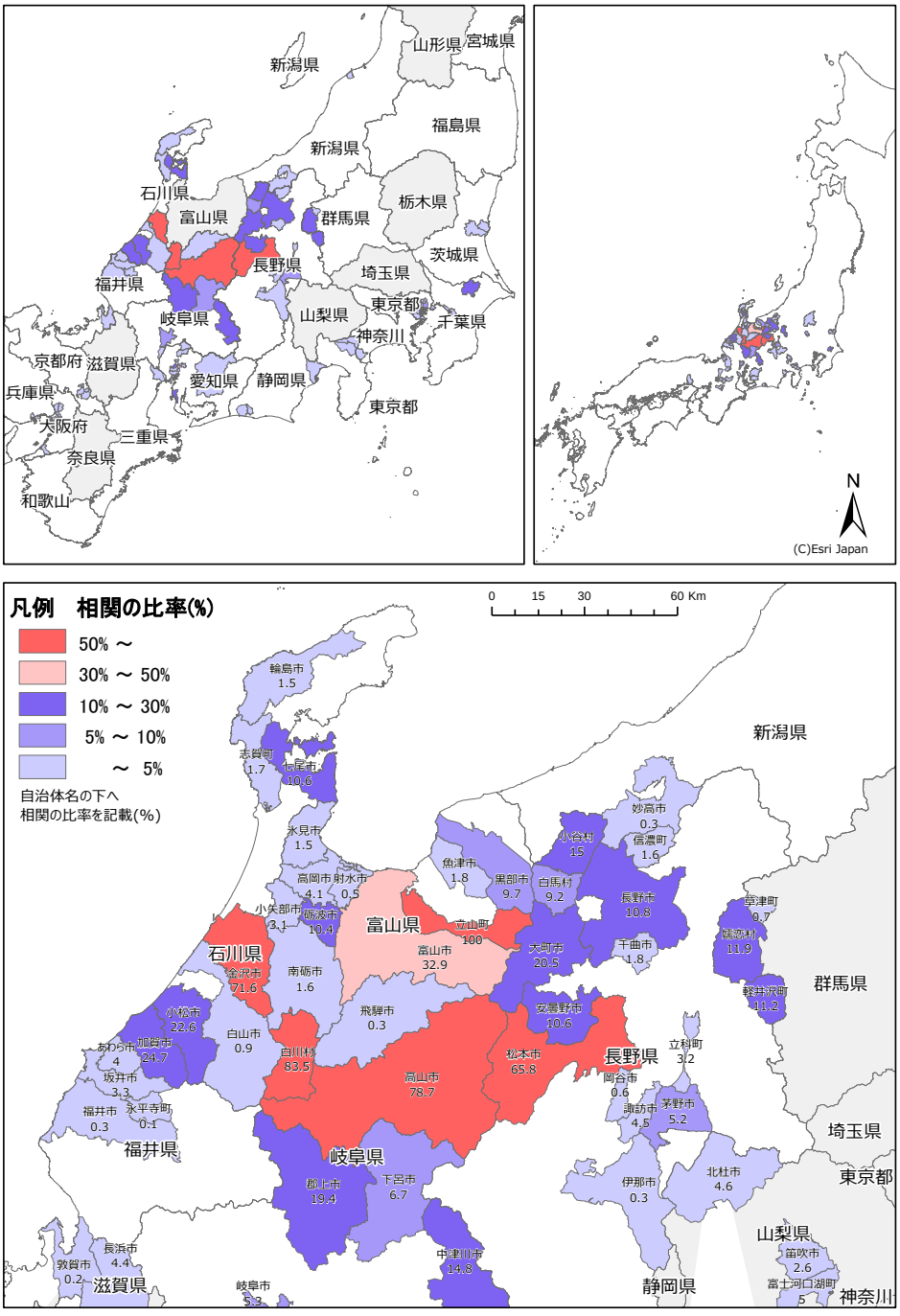
※個人情報保護の観点から少人数の訪問者については国別で把握できず、本頁の旅行者総数と P13 の旅行者総数は一致しない。

データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社ＮＴＴドコモの登録商標です。

⑥ 立山町以外の他旅行先（台湾）

- 立山町への訪問が最も多い台湾からの来訪者について、他旅行先をみると、白川村(83.5%)、高山市(78.7%)、金沢市(71.6%)の順で高い水準を示した。
- その一方で、近隣の富山市は 32.9%と低く、周遊ルートに選ぶインバウンド客は少ないことがわかる。

立山町訪問者の他都市訪問　相関の比率【年間−台湾】

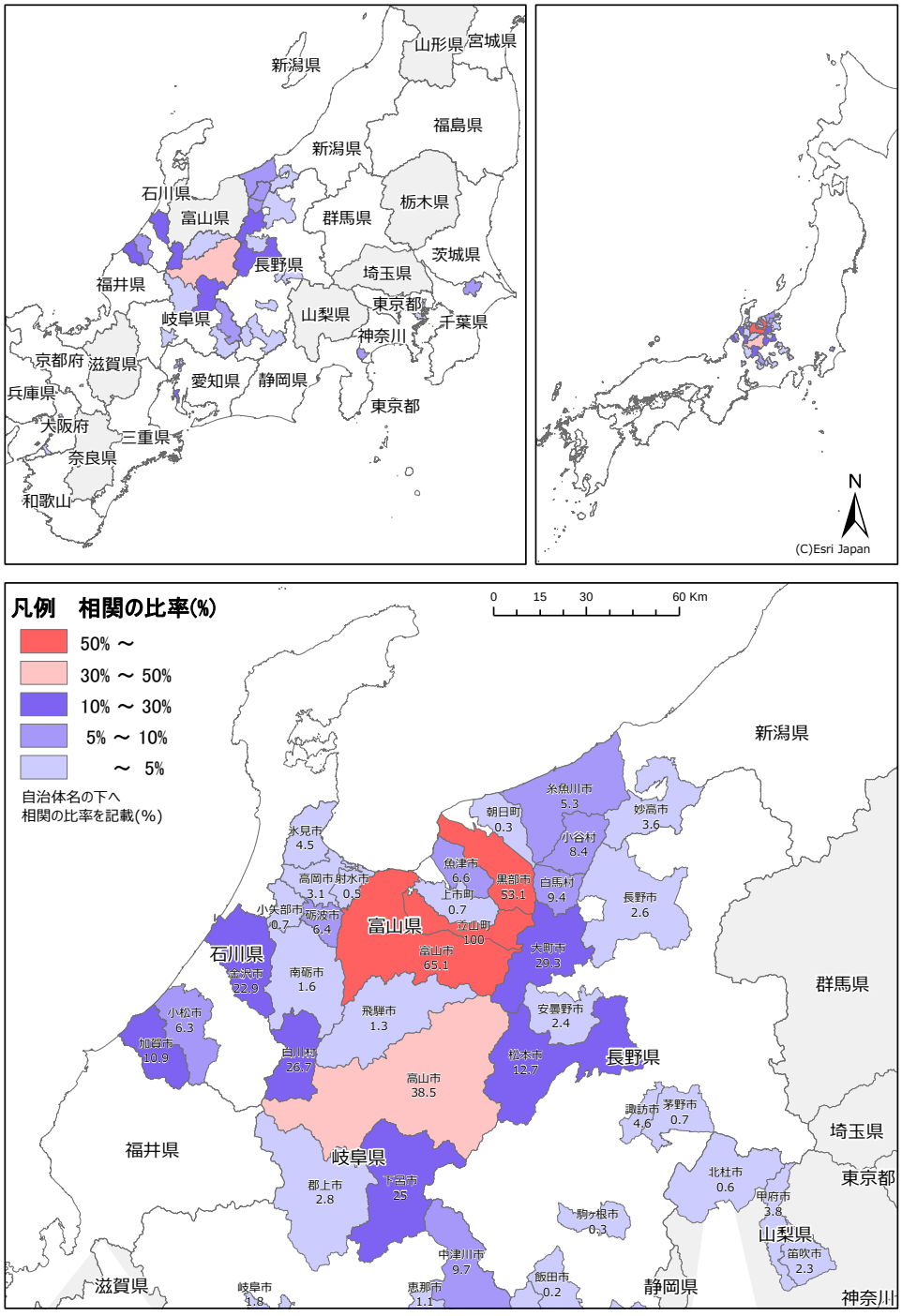


データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社ＮＴＴドコモの登録商標です。

⑦ 立山町以外の他旅行先（韓国）

- 年間を通して立山町への旅行客数が安定している韓国では、富山市(65.1%)、黒部市(53.1%)と立山町の近隣を周遊する他の国にない特徴を示している。
- 台湾の特色と比較すると、立山以外の周遊先として富山県内が選ばれていることがわかる。

立山町訪問者の他都市訪問　相関の比率【年間−韓国】



データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社ＮＴＴドコモの登録商標です。

（４）インバウンド客ビッグデータ分析まとめ

- これらのビッグデータ分析をまとめると下記のような特徴が上げられる。
- 属性分析：インバウンド客の６割は「雪の大谷」等のコンテンツがある春シーズンに集中して訪問しており、夏・秋シーズンでは来訪者が減少する特徴がある。また、国・地域の属性をみると、アジアからの旅行客が大宗を占めており、中でも台湾からの旅行者が４割程度と突出して多い。
- 移動分析：出国空港においては、アジアからは中部国際空港、欧米では成田空港の利用が高く、出国空港においても同様の傾向がある。また、立山町を訪問したインバウンド客が訪問する相関の高い市町村においては、岐阜県高山市や白川村が高い一方で、富山県内の市町村との相関は低いことが判明した。
- 上記の結果や関係者へのヒアリングを踏まえると、最も主要なルートは、アジア圏のインバウンド客が中部国際空港から入国し、その後北上してアルペンルートや、白川郷、高山等を経由し出国時に再び中部国際空港から出国するルートであると推察される。これらのルートは、旅行業界では「サムライルート」と呼ばれる日本の原風景を満喫する人気の高いルートであり、今般の調査で改めてその人気度が推察された。
- また、富山県内の観光地の周遊の観点においては、多くのインバウンド客においては、富山市や黒部市などの同時訪問割合は上位にランクインされておらず、立山黒部アルペンルートを利用するために富山県に来訪した訪日外国人においても富山県内での周遊は、十分に行われていないと推察された。

４．今後に向けて：富山県の経済波及効果を高めるために

第２章でアルペンルートの経済効果を確認したが、第３章の移動分析では県内周遊の課題が浮かび上がった。富山県の経済効果を最大化するためには、アルペンルートを目的に富山県に来る観光客に県内を周遊させ、滞在時間を延ばし消費を増やす必要がある。これまでの分析やヒアリングを踏まえ、以下の提言をする。

（１）県内周遊の促進

① 富山県内の観光スポットを周遊するための交通整備

- アルペンルート訪問者は、県内の観光スポットを巡る際に交通手段の不便さから選択肢から外れる場合があることがヒアリングで確認された。以前は団体客が多かったが、最近は個人客の比率が増加しており、団体客は旅行会社によるパッケージツアーで交通手段が手配される一方、個人客は公共交通等を利用して自ら手配する必要がある。そのため、初めて訪れる人にも、明確で便利な移動手段が提供されていることが、県内の周遊には必要と考えられる。

② 県外有力観光スポットを意識した県内観光スポットの魅力向上・差別化

- 移動分析やヒアリングにより、インバウンド客は主に中部・北陸地域を４泊５日程度で訪れ、白川郷や高山などを巡る「サムライルート」が人気であることが明らかとなった。彼らは限られた日程で旅行するため、国内でも有名な観光地を厳選し訪れており、アルペンルートを訪れる際にも、必ずしも県内を周遊するわけではない。従って、県内の観光事業者は、各観光地の魅力を発見し磨くだけでなく、マーケティングや新しいコンテンツ開発、宿泊施設整備等を行い、高山等他の観光地との差別化や魅力の提案に繋げる必要がある。

（２）夏・秋の需要喚起

- 属性分析の通り、アルペンルート来訪者においては春シーズンの観光客が多い一方、夏・秋シーズンの観光客が少ないことがわかった。インバウンド客に夏・秋の魅力が十分に訴求できていない可能性があり、今後来訪者数を増加させる余地はある。需要の平準化は周辺の観光従事者の負担軽減にも繋がり、働き手確保の観点からも意義がある。アルペンルート自体の夏秋の魅力の訴求を行うとともに、地域の他の観光資源との組み合わせにより、夏・秋の需要を喚起することが求められる。

（３）来訪者の属性の多様化

- 属性分析によると、台湾からの訪問者が４割と最も多く、台湾向けのマーケティングは非常に成功していることが分かった。一方、中国など人口の多い国や今後更なる経済発展が見込まれる東南アジア諸国、滞在日数が長く消費が見込まれる欧米諸国へのマーケティングにはまだ十分な余地がある。また訪問者が一国に偏っていることは地政学的リスクの観点からも注意が必要である。

（４）消費単価の上昇

- 経済波及効果の拡大には最終需要額の最大化が重要である。最終需要額は「（訪問者数）×（一人当たりの平均消費額）」で計算されるため、訪問者数に言及した前述のポイントに加えて、平均消費額の重要性も強調したい。アルペンルートを訪問した観光客の、富山県内の滞在期間中の消費回数を増やす努力や魅力向上による消費単価の増加により最終需要額が増大されれば、一層の経済波及効果が生まれ、地域経済の更なる活性化に繋がる。

立山黒部地域におけるアルペンルートは、多くの観光客の集客し、富山県内に相応の経済効果をもたらす有用な資源である。これらを有効活用し上手く県内周遊に繋げることにより、富山県経済や観光業の一層の発展に繋がることを期待する。

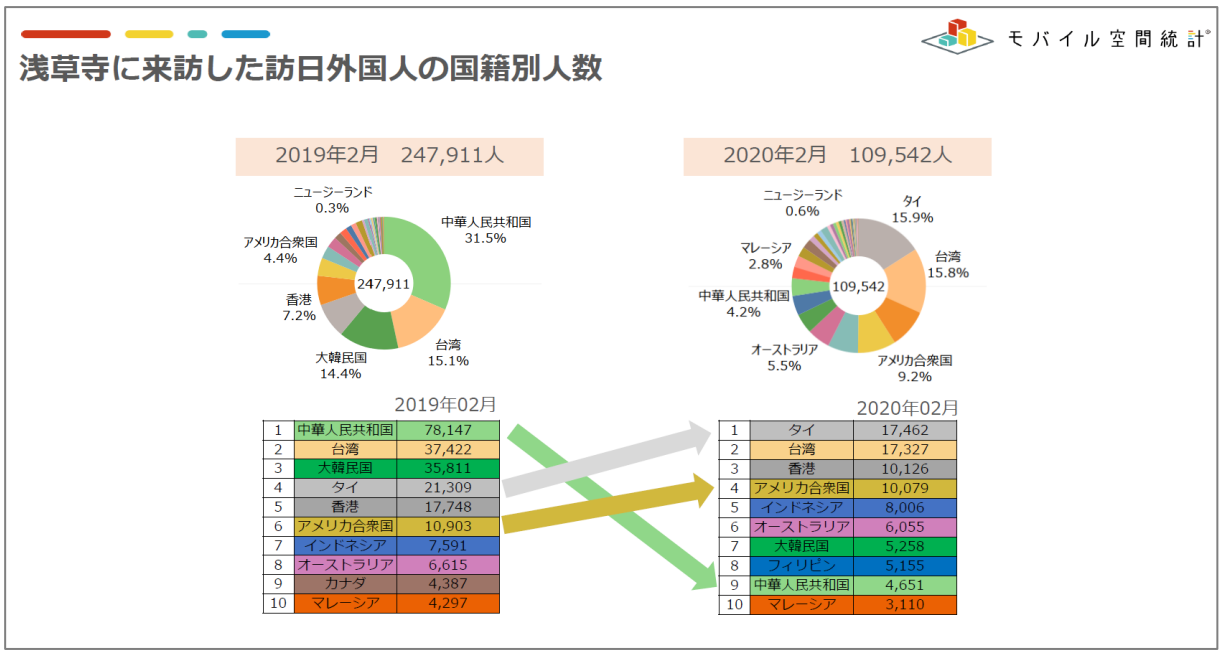
【Appendix1】ドコモのモバイル空間統計（R）の特徴

- サンプルサイズが大きく、統計データの精度は高い。
- 携帯の基地局情報を基にしており、500m（国内）および 1 ㎞（訪日外国人）メッシュでの集計が基本となる。
- 滞在人口は、拡大推計である。



出所：（株）ドコモ・インサイトマーケティング

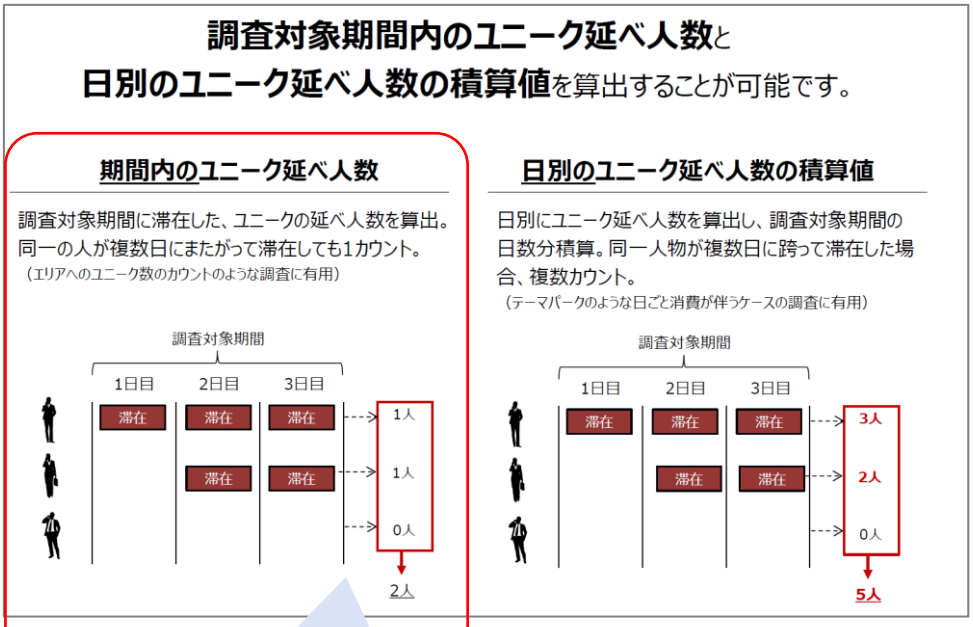
- 前述のデータを加工し、ドコモのモバイル空間統計（R）として、観光等で利用しやすいデータとして提供されている。



出所：（株）ドコモ・インサイトマーケティング

■ **ドコモのモバイル空間統計（R）における滞在人口の集計仕様**

滞在人口は、期間内のユニーク延べ人数となる。日別のユニーク延べ人数の積算値を用いていないことから、滞在人口が低く出る傾向のある点に留意が必要。



出所：（株）ドコモ・インサイトマーケティング

今回のドコモのモバイル空間統計(R)では、期間内のユニーク延べ人数となる。

観光では、来館者などの延べ人数で日別に計上されるものがあり、大きくなる傾向に注意。

【Appendix２】これまで公表した新幹線/観光関連の当行レポート

公表年度	タイトル
2013	北陸新幹線金沢開業による石川県内への経済波及効果
2015	北陸地域における産業観光の可能性について
2016	北陸新幹線金沢開業による観光活性化が石川県内に及ぼす経済波及効果 － 交流がもたらす経済波及効果は 678 億円 －
2016	北陸地域における観光マーケティングの必要性 － DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査より －
2017	北陸新幹線開業を契機とした金沢市内におけるホテル投資動向
2019	北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果 －観光・ビジネス両面からの交流人口増加がもたらす経済波及効果は推計 309 億円－
2019	北陸新幹線開業 5 年目の交流人口変化がもたらす富山への経済波及効果 －経済波及効果は 304 億円/年、インバウンド対応で更なる上乗せも－
2020	富山・石川・福井県民のマイクロツーリズムに対する意識調査
2021	新幹線の経済・社会効果 ～2010 年以降の３県経済のふり返りから～
2021	新幹線の経済・社会効果 ～新幹線で動き出した福井市の街づくり～
【つながる北陸】新幹線レポート	
2022	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.1 越前たけふ駅 “the ECHIZEN” ～越前たけふ駅が呼び覚ますゲニウス・ロキ～
2022	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.2 福井駅 北陸新幹線敦賀開業に関する北陸・首都圏・関西在住者の意識調査 ～福井が開業効果を最大限活かすために～
2023	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.3 金沢駅 北陸新幹線敦賀開業による石川県内への経済波及効果 － 経済波及効果は推計 279 億円、金沢駅のハブ機能を高め全域への波及を －
2023	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.4 小松駅・加賀温泉駅・芦原温泉駅 北陸新幹線敦賀開業を契機とした温泉地のリブランディングに向けて － ”伝統と新しさ”による多様な顧客の獲得を －
2023	「つながる北陸」新幹線レポート：vol.5 敦賀駅 北陸新幹線敦賀開業を契機とした持続可能(サステナブル)な地域づくり － シン・新幹線効果に向けて －

レポートの全文は、当行ウェブサイトで公表しております。

©Development bank of Japan Inc.2024
本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身の判断でなされますようお願いいたします。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡ください。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：㈱日本政策投資銀行』と明記して下さい。

（お問い合わせ先）
株式会社日本政策投資銀行　北陸支店　企画調査課（電話：076-221-3216／E-mail：hrinfo@dbj.jp）